



pas07046 [www.fotosearch.jp](http://www.fotosearch.jp)

これは恋。

一目見たあの瞬間から私の心は彼のとりことなった。

私は時間のある限り彼を追った。彼が隣の高校の一年生でサッカー部だってこともわかった。家では二人の妹を可愛がるやさしいお兄ちゃんであることも知った。

彼を知れば知るほど、私は彼に惹かれていった。

外見に自信もなく、人と話すことも苦手な私とかれとでは、到底釣り合わないことは分かっている。でも、この思いをとどめておくことはできない。

彼にこの思いを伝えたい、でもそんなことはできない。でも私は彼と一緒にになりたい。

私の思いは日に日に募っていく、抑えきれないこの衝動。そしてついに私は...

私は今日も冷蔵庫を開ける。

今日は記念日だ、私と彼はついに結婚する。やっと出来上がったエンゲージリング。今お店から受け取ってきたところだ。シンプルだけど、私と彼の大事な絆。きっと彼の指にも似合うことだろう。

冷蔵庫の奥から食材に混ざった紙袋を取り出す。愛おしくそれを抱きしめると、私は中から彼の左手を取り出した。

青白くなった彼の無骨な左手の薬指におそろいのリングをつける。

私はやけどの残る顔に精一杯の微笑みを浮かべた。

あの日、私は彼の家に火をつけた。

炎は瞬く間に彼に家を飲み込んだ。その中に忍び込んだ私は、妹たちを助けようとして柱の下敷きになってしまった彼に出会った。

なんて運命的なのだろう。これで私の思いはかなえられる。

燃え盛る柱につぶされ助けを求める彼を無視して、私は持ってきた鉈で左手だけを切り取り、家に持ち帰った。

私と彼では釣り合わない。私にはこれが精一杯の愛情だった。

冷蔵庫の中には今も彼の左手がいる。私とお揃いのリングをつけていつまでもそこにいる。

贅沢は言わない。私はそれだけで幸せだ。

END